

2021年度 第2四半期決算説明会 主な質疑応答

日時:2021年10月28日(木) 15:30~16:36

全体

Q:今回発表した2021年度通期業績予想の上振れ・下振れ要因は。

A:

- ・上振れ要因としては、部材調達等の課題が早期に解決されれば、コンポーネントを中心に売上拡大が見込める。また、現行の為替レートで推移した場合の好転、更なる固定費削減の余地がある。
- ・下振れ要因としては、市況の悪化、ITソリューションの売上未達リスクがあるとみている。
- ・上振れ要因が下振れ要因を上回るとみており、営業利益670億円を最低限の目標と考え、利益の上積みを目指す。

Q:部材調達リスクの状況は。

A:

- ・アジア諸国のロックダウンの影響等により、電子部品、樹脂等の多くの部材で調達難が発生している。複数購買や長期契約、代替品の選定等の推進により、大きな業績影響は発生していない。
- ・樹脂の調達は解決方向で、シリコンウエハについては、2022年度まで確保している。売上拡大に向けて引き続き部材調達の強化を推進する。

Q:素材高騰・物流費高騰の影響は。

A:

- ・素材高騰の影響額については、上期は約20億円、下期は約40億円を織り込んでいる。複数購買や長期契約、コストダウン、価格転嫁等に取り組み、業績影響を最小限に留めていく。
- ・輸送費の高騰については、地産地消を推進しており、業績に与える影響は小さい。

Q:コンポーネントの需要が増加しているが、先行受注の状況は。

A:

- ・器具、パワエレFA、半導体を中心に先行受注が継続している。
- ・器具やパワエレFAは、お客様が部材調達難を懸念し先行受注が増えている。先行受注は下期からは落ち着いていくとみている。低圧インバータについては、2022年度納期分が2桁億半ば程度ある。
- ・半導体は、産業向けを中心に先行受注があり、全受注の1桁後半%。

パワエレ エネルギー

Q:器具の先行受注が多い地域は。

A:

- ・国内、中国、アジアで先行受注が発生している。

Q:器具の収益性は改善しているか。

A:

- ・2020年度から取り組んでいる事業構造改革の効果に加え、物量増により収益性は大幅に改善している。

パワエレ インダストリー

Q:FAについて、樹脂、コネクタ等の汎用部品の調達リスクは発生しているか。また、3Q以降の業績への影響は。

A:

- ・様々な部材で調達リスクは発生しているが、代替部品や部材の見直し等を行い、年間計画の達成を目指す。

Q: 今期好調なオートメーションは、来期以降に反動減はあるとみているか。

A:

- ・来期は、中国市場にリスクがあるという見方もあるようだが、現時点では不透明。パワエレの営業体制の見直しにより、来期以降もコンポーネント・システムの受注・売上拡大に取り組んでいく。例えば、コンポーネントにおいては、昨年度からプラットフォーム化を活用した低圧インバータの新商品を投入し、売上拡大に取り組んでいる。国内のプラントにおいては、顧客の投資傾向が老朽化設備の更新に加え、カーボンニュートラルへの対応の需要が増えてきており、当社全体で新規受注獲得に取り組んでいく。

半導体

Q: 半導体の3Q受注高(対2Q)の分野別見通しは。

また、半導体の収益性が改善している要因は。3Q以降の見通しは。

A:

- ・3Q受注高については、産業分野は対2Qで先行発注がなくなる分減少するが、それを除けば高水準横ばいが継続する見通し。電装分野は新車種の立ち上がりもあり、対2Qで2桁%増の見通し。
- ・収益性の改善は、物量増に加え、産業分野および電装分野の一部で価格の見直しを行っていることが要因。
- ・3Q以降の収益性見通しは、増産投資に見合った物量増により、引き続き高水準で推移させたい。

Q: RC-IGBTの競争環境に変化はあるか。次世代開発品の状況は。

A:

- ・他社で自動車向けの本格採用は聞いておらず、当社のRC-IGBTの優位性は継続している。
- ・次世代開発は取り組んでおり、2023、2024年頃から適用していく。

Q: 新聞報道にあった、半導体の設備投資(追加で400億円)の内容を確認したい。

A:

- ・基本的には新聞報道の通り。1Q決算発表時にディスク媒体事業の撤退とクリーンルームの半導体への転用を説明したが、それを含めて400億円の設備投資を決定した。400億円の一部は、松本工場(8インチシリコンウェハ)を中心に投資し、2023年に向けて準備を進めていく。

Q: 自動車向けSiCの8インチ化の対応は。

A:

- ・SiCの8インチ化は将来的には進んでいくだろうが、現状は品質的に量産対応できるレベルにない。当面は6インチ主体だろう。

Q: ディスク媒体事業の売上・利益の規模は。また、マレーシアのクリーンルームの半導体への転用スケジュールは。

A:

- ・売上高は、2020年度190億円程度。2021年度上期は60億円弱、営業利益は10億円程度。
- ・マレーシアのクリーンルームは、2023年下期から半導体を量産できるよう進める。

以上